

凍霜害から農作物を守りましょう

凍霜害を防ぐため、防霜資材を準備するなど、対策は次のとおり実施してください。

《水稲》

1. 降霜の恐れがある前日の午後は、ハウス内の地温を下げないように「かん水」をしないで早めに（午後3時頃から）ビニール等の被覆を行い急激な温度降下を避けてください。
2. 晩霜の恐れがある場合は、5℃以下の低温に長時間さらされることのないようにミラーシート等の保温資材を育苗箱上に「ベタガケ」し、裾を押さえて保温に万全を期してください。
3. 移植後降霜が心配される場合は、深水管理を行います。また、湛水直播栽培において、出芽・苗立ちの後に降霜が心配される場合は、稲が隠れる程度に「湛水」して保護してください。

《野菜・花き》

1. 育苗では、温度及び水分管理に注意し、定植前には外気温への順化を行いましょう。
2. 苗床では保温資材（保温シートやマット）を準備しておき、降霜が予想されるときは直ちに「被覆」し保温に努めることとし、定植は晩霜の危険が無くなってから行ってください。
3. 定植直後は、特に被害を受けやすいので移植適期でも「天気予報」に十分注意しながら作業を進めてください。
4. ハウス栽培の場合は、暖房機や、二重カーテンを活用し温度降下を防いでください。また、練炭及び家庭用ストーブをハウス内に持ち込み保温する場合は「ガス害」には十分に注意してください。
5. 露地栽培で、定植後に降霜の恐れがある場合は、保温シートやマットで被覆してください。
6. ハウスでは、ほ場が乾燥していると、凍霜害の被害を受けやすいので通路にも適度な水分をもたせておくようにします。

《果樹》

1. 生育状況
各果樹の生育は平年より7～10日早く（4/1現在）推移しています。この時期の生育は直前の気温に左右されやすいので、今後の気象の経過に注意が必要です。
2. 安全限界温度・・・植物体の温度がこの指標以下に1時間おかれた場合、わずかでも花芽が障害を受ける恐れがある温度。

発育ステージ	展葉初期	花蕾露出始期	花蕾着色(赤色)期	開花始め～満開期	落花期	
リンゴ・ふじ	-2.1℃	-2.1℃	-2.0℃	-1.5℃	-1.7℃	
発育ステージ	花蕾露出期	花弁露出始期	花弁白色期	開花直前	満開期	幼果期
日本ナシ・幸水	-2.9℃	-2.5℃	-1.8℃	-1.8℃	-1.3℃	-1.3℃
発育ステージ	花蕾赤色期	花弁露出始期	花蕾露出期	開花直前	満開期	落花期
モモ・あかつき	-2.6℃	-2.5℃	-2.5℃	-2.5℃	-2.5℃	-2.1℃

3. 対策

生育の進展に伴い耐凍性が低下し凍霜害の危険性が高まるため燃料資材を燃やし、防霜対策を行います。安全限界温度より1℃高い温度で点火します。点火は園地の周囲から行います。火数は気温の低下状況により調整します。

冷気が停滞するくぼ地等では底から点火します。点火数は気温の低下状況により調整します。

○燃料資材

資材名称	10aあたり点火数
灯油：石油半さいかん	40
灯油：ミルク空き缶	80
「霜キラー」(米ぬかの固形物)	20～30
「シーダーフレーム、デュラフレーム」	30～42

※注意事項

- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び福島県生活環境の保全に関する条例により、燃焼に伴って有害なガス等を発生させることは禁止されています。
- ・二本松市においては、霜注意報を伝達するため、午後6時30分にサイレンを1分間連続吹鳴することとしています。村内の火災とお間違いのないようにご協力ください。

※晩霜の恐れがある晩には、テレビ・ラジオ等の予報を十分参考にしてください。

※村の防災行政無線による霜注意報の広報

午後6時までに注意報が発令された場合については、村防災行政無線により放送いたしますのでよろしくお願いいたします。

平成28年度大玉村防霜対策本部設置期間

平成28年4月15日(金)～5月31日(火)の47日間

※被害が発生した場合は・・・

万が一、防霜対策本部設置期間内に凍霜害が発生した場合は、被害内容・被害地等を
大玉村役場産業課(大玉村防霜対策本部) TEL24-8106に
報告くださるようお願いいたします。